

2002年11月5日

東京都練馬区

外環PI協議会 協議員

武田 佳登

提案と意見

1. 意見=会議のあり方と会則について=

過去8回にわたる外環PI協議会の論議の推移をみると、部分的には有効な論議も見られたが、総体としては、全く論議がかみ合わず堂々めぐりと閉塞状況にあると思います。会議のあり方について以下に3項の問題点をかけご検討善処を求めます。

1) 資料要求の提出 これは、全協議員の資料要求を集約しテーマを時系列に整理し、それに沿って論議するルールが曖昧なままの資料提供の仕方による。くわえて、各協議員の資料要求の文書による提出が少ないことも堂々めぐりの一因でもある。このことについて早期に改善し効果的な会議の進行を求めたい。

2) 確認合意から決定へ 会議のなかで、司会者の言葉に「確認・合意または同意」の言葉が多く見られる。が、「確認・合意・同意」の概念は極めてあいまいである。社会通念としては確認・同意のあとには、団体（PI協議会）としての議決&意志決定がともなう。とともに行政系と住民系相方の各構成員は、その意志決定を尊重する義務をおう。確認同意が後にくつがえされるような愚さはさけるべきである。

3) 議決方式の明文化を 当初の規約論議はこれらを曖昧にしてすみ、外環PI協議会は「意見や要望の出しっ放しの協議会」とされた。なお、団体意志を決定しない協議会となっただけか、意見集約の議決方式（多数決あるいは3分の2以上）も明文化されず推移した。その結果は司会進行役の役割と事務局の処理能力の低下をまねいている。

くわえて、都市づくりに対する国と東京都の意識と足なみの乱れも、会議の堂々めぐりの重大な要因であることを指摘し、あとでふれる都市づくり親の一致を強く求めたい。

価値ある少数意見にも十分に耳を傾けつつ、有効な論議をへて団体意思を決定できる会則の見直しをすべき段階にあると思う。

2. 今後、集中論議を求めたい課題の提案

冗長をさけ、以下いかにスケルトン的な骨格を提案いたします。

- 1) 重要な「まちづくりの視点」 かつて、造物主は自然と人間を創り、人間は都市を創ってきたといわれる。自給自足・物々交換をベースとした原始共同体的生活を現代に望むことは全く不可能である。とするならば、都市市民は好と好まざるとに関わらず都市の生成発展と、生産→加工→流通の都市システムに頼り、労働の対価をえて消費生活を営まざるを得ない。これには年金生活者から幼児まで包摂される。この都市システムを拒否して都市生活はあり得ないであろう。

うけ身のみ都市づくり親から、自分たちの都市をどうするかという、家庭の中から地区へ、地区から地域へ、地域から広域を見すえた能動的市民の英知による都市づくりのイメージが求められている。過去のアンケート調査に見られる都民の意向を集約すると、外環の16km周辺地域の都市イメージは、「水と緑の武蔵野」の実現ではなかろうか。

市民の求める「水と緑の武蔵野」志向の都市づくりの防衛と、都市更新が主体であって、外環が突出した主体ではない。外環は都市再生の補助手段に過ぎないことを強調しておきたい。このような視点にたつと現段階の外環PI協議会には、都市づくり全般を所管する国交省都市局も参加し、首都東京の都市づくり論議に積極的に加わるべきだと思う。

かたや市民の動向を見ると残念ながら、総体として、自分が学び働き生きる都市でありながら無関心な住民が多い。数10年前に行政の暴走を許してしまった原点には、このような側面もあることに自省をこめて指摘しておきたい。

先に資料で提示された都の論議チャートに、「都市づくり」の視点がみられたことを高く評価した所以はここにある。

クルマしか視野にない短絡思考の外環づくりならば、それこそ「原点にたちかえって」機軸鮮明にしそのような外環は無用である。

2) 欠かせない地域レベルの車の走行経路調査

交通の現状については多少の精粗はあるが広域データが開示され、交通量を含め日頃の体感数値と大きな乖離はみられない。外環のバイパス効果がどういう環境効果をもたらすか、外環周辺16km地域の生活環境悪化の主要因である慢性渋滞環八の、車種別走行車輦数の全経路調査が不可欠である。

この調査を早期に実施し、科学的な地域データをもとに環八と外環の都市づくり効果と、デメリットの実態を明らかに、国は早期に信頼できる解消システムを住民の前に提示すべきである。つぎに、周辺住民が特に危惧し求めている具体的な課題にふれてみたい。

3. 現実と実態を見すえた都民の要求に応える論議を

過去に練馬区では関越と外環問題に直面し、環境防衛に多大な労苦を費やし現在も継続中である。

今後の論議の焦点は、自分たちの「まち」がどうなるかである。その具体的な課題は先の「たたき台」説明会参加者の切実な声の収録資料が開示された。ここでは一部を除き、いわゆる抽象的な観念論や原理・原則論をこえた、厳しい現実の打開策をもとめる意見と要求が多くみられた。

都市システムの修復更新の必要性を認識し、住民は首を長くして以下の具体試案の開示をもとめている。

- 1) 外環地下本線の構造
- 2) インターの位置（数）と上部の修復イメージ
- 3) ジャンクションの上部の修復イメージ
- 4) 換気塔の位置と排ガス浄化機能の信頼性の開示
- 5) 用地買収の範囲と補償方式（換地方式を）案の説明
- 6) インター・ジャンクションの集散と関連街路の交通量と変化予測
- 7) 同関連街路の拡充と道路のアメニティー化方策の提案
- 8) 水と緑の修復保全策と、生態系の保護回復試案の提案
- 9) 計画実現の道路財源の原因者一括確保の明示
- 10) その他

4. おわりに

会議の進め方から、今後に見込まれる具体的な論議の細部にふれてみました。当然いくつかの批判は戴くと思いますが、これらは、外環問題を考えることを目的とするP i 協議会はさけて通れない具体的な問題です。

上の内容に対する国と東京都の対応がどうなるかが、外環の評価と有用無用を論議する場には不可欠な条件となるものと判断し、タイミング等は無視し意見要望として提出させていただきました。

各協議員のご理解をおねがいたします。

以 上